

(特非)NPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会

一般助成

3年目

実践



2016年ふれあい池におけるドビ流し

## 大阪産ニッポンバラタナゴ 個体群を保全するための 自然再生活動

大阪産ニッポン  
バラタナゴの繁殖

100,000尾

和綿の収穫量

50kg

活動の全体目標に  
対する達成度

80%

### 課題

大阪産ニッポンバラタナゴを保護するために高安地域の里地里山の自然再生活動を通して、人と自然が共生できる持続可能な花卉栽培や有機野菜作りを活性化すること。

### 目標

大阪産ニッポンバラタナゴの個体群が効率よく持続的に維持されるためには、地場産業の必要性から溜池を継続的に利用されるか、あるいは、保護池を市民の憩いの場として利用される状況を構築することである。

### 活動内容

高安自然再生協議会を開催し、ニッポンバラタナゴ個体群の保全計画書案をまとめ、実証活動を開始した。久宝寺緑地の心字池の在来生物の繁殖状況と水質を調査し、市民参加型の“ドビ流し”イベントを実施した。一方、ふれあい池とRE-1池および清水池の“ドビ流し”を実施し、ニッポンバラタナゴの最大個体群を維持した。また、タナゴファームにおいて保護池の水を利用して、河内木綿の原料である和綿の有機栽培に成功した。



大量に繁殖した  
ニッポンバラタナゴ

### 達成できなかったこと

家庭排水の流入によって、心合寺山古墳の堀におけるニッポンバラタナゴの繁殖は不成功に終わった。また、久宝寺緑地の池においても外来種の放流によって不成功に終わった。

### 今後の展望

ニッポンバラタナゴを保護するために、高安の里地里山の水循環系を健全化し、エコ・ツーリズムを促進する。

## 成果と工夫した ポイント



### 成果

ドブガイ約5,000個体とニッポンバラタナゴ約6万尾の繁殖に成功した。また、3年間で70kgの種付き実綿を収穫することができた。さらに、農家に依頼したキンタイ米も3年間で750kg販売することができた。

### 工夫

保護池において伝統的な池浄化方法である“ドビ流し”を実施し、その後、腐葉土を含む山土を投入した。